

注3

大学番号：国046

事前伺い

[令和2年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

愛知教育大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人愛知教育大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務・企画部 企画課

職名・氏名 ダイガクカイカクカリチョウ 大学改革係長 マツモトノリエ 松本典江

電話番号 0566-26-2118

（夜間） 0566-26-2111

F A X 0566-95-0035

e-mail kaikaku@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

教育学研究科

＜教育実践高度化専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	43
7. その他全般的事項	44

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

国立大学法人 愛知教育大学

(2) 大 学 名

愛知教育大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒448-8542
愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
学 長	(ゴトウ ヒトミ) 後藤 ひとみ (平成26年4月1日)	(ノダ アツノリ) 野田 敦敬 (令和2年4月1日)	任期満了による 令和2年4月1日(2)
研究科長	(ゴトウ ヒトミ) 後藤 ひとみ (平成26年4月1日)	(ノダ アツノリ) 野田 敦敬 (令和2年4月1日)	任期満了による 令和2年4月1日(2)
理事・副学長 ・大学院運営委員会委員長	(ノダ アツノリ) 野田 敦敬 (平成31年4月1日)	(ノジ ツネアリ) 野地 恒有 (令和2年4月1日)	任期満了による 令和2年4月1日(2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
教育学研究科 教育実践高度化専攻 教職修士(専門職)	教員養成関係	2年	120人	— 年次 — 人	240人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	120 (—) [—]	— (—) [—]	0.7倍	— 倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	109 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	107 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	91 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	88 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	—	—	0.7	—			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
1 年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	88 [－] (－)	－ [－] (－)			
2 年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)			
3 年次					－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)			
4 年次									－ [－] (－)	－ [－] (－)		－ [－] (－)	－ [－] (－)
計													

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	－ 人	－ 人	平成28年度	－ 人	－ 人	
平成29年度	－ 人	－ 人	平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	－ 人	－ 人	
平成30年度	－ 人	－ 人	平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	－ 人	－ 人	
			平成30年度	－ 人	－ 人	
令和元年度	－ 人	－ 人	平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	－ 人	－ 人	
			平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
令和2年度	88 人	0 人	平成28年度	－ 人	－ 人	
			平成29年度	－ 人	－ 人	
			平成30年度	－ 人	－ 人	
			令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
合 計		0 人		－ 人	－ 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例) ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{88} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

5

[illegible]

(教科指導重点コース専門科目)	高校教育履修モデル	教材開発と編成・実践開発A（国語：文学教材・近現代）	1前	2		1						兼1		
		教材開発と編成・実践開発B（ 国語：古典 ）	1前	2								兼2		
		教材開発と編成・実践開発C（国語：言語教材）	1後	2			1					兼1		
		教材開発と編成・実践開発D（国語：書写連帯教材）	1前	2								兼2		
		教材開発と編成・実践開発A（歴史総合、地理総合、公民）	1後	2		1	1					兼1		
		教材開発と編成・実践開発B（日本史探究、世界史探究）	1後	2								兼1		
		教材開発と編成・実践開発C（地理探求）	1後	2		1						兼1		
		教材開発と編成・実践開発D（倫理・政治・経済）	1前	2			1					兼2		
		教材開発と編成・実践開発A（英語：文法と英語表現）	1後	2			1					兼2		
		教材開発と編成・実践開発B（英語：コミュニケーション）	1前	2								兼2		
		教材開発と編成・実践開発C（英語：異文化理解）	1前	2								兼2		
		教材開発と編成・実践開発D（英語：リーディング）	1後	2		1						兼1		
		教材開発と編成・実践開発A（数学：代数分野）	1後	2		1						兼2		
		教材開発と編成・実践開発B（数学：幾何分野）	1前	2		1						兼1		
		教材開発と編成・実践開発C（数学：解析分野）	1前	2								兼3		
		教材開発と編成・実践開発D（数学：確率・統計分野）	1後	2								兼3		
		教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物）	1前	2		2						兼6		
		教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学）	1後	2		2						兼8		
		教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎）	1前	2		2						兼11		
		教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）	1後	2		2						兼11		
		教材開発と編成・実践開発A（情報：情報社会の問題解決）	1後	2			2					兼1		
		教材開発と編成・実践開発B（情報：コミュニケーションと情報デザイン）	1前	2			2					兼2		
		教材開発と編成・実践開発C（情報：コンピュータとプログラミング）	1後	2		1						兼3		
		教材開発と編成・実践開発D（情報：情報通信ネットワークとデータ活用）	1前	2		1						兼3		
		小計（24科目）	—	0	48	0	8	4	1	0	0		兼45	
		児童生徒発達支援コース専門科目	コース共通	子どもの発達と援助ニーズの理解と実践	1前	0	48	0	8	4	1	0	0	兼45
				協働のための社会資源の理解と活用	1前	2			1	0				兼1
				子どものこころの発達とその支援	1前後	2								兼1
			小計（3科目）	—	0	6	0	1	0	0	0	0		兼2
			生徒指導・教育相談系	生徒指導と教育臨床の理論と実践	1後	2			1					兼4
				キャリア発達支援の理論と実践	1後	2			1					兼1
				子どもの支援と社会的包摂 学級経営の深化と発展	1後	2			1	1				
			小計（4科目）	—	0	8	0	1	3	1	0	0		兼5
			幼児教育実践系	幼保小連携・接続の理論と実際	1前	2		2	1					兼1
				幼児理解を深める保育事例研究	1前	2			1	0				兼1
				幼児教育実践の開発と省察	1後	2								兼3
			養護教諭実践系	障害児保育の理論と実践	1後	2			1	0				兼1
				小計（4科目）	—	0	8	0	2	0	0	0	0	兼4
	養護活動の理論と実践			1前	2		2							
	特別支援実践系		健康教育実践の開発と省察	1前	2			1						
			学校危機管理と運営体制	1後	2								兼2	
			保健室経営と校内外組織の連携・協働	1後	2		1							
			小計（4科目）	—	0	8	0	1	1	0	0	0	兼2	
			視覚障害児童生徒の理解と支援	1前	2								兼1	
			聴覚障害児童生徒の理解と支援	1前	2			1					兼0	
			肢体不自由児童生徒の理解と支援	1後	2								兼1	
			知的障害児童生徒の理解と支援	1前後	2			1	0					
			発達障害児童生徒の理解と支援	1後	2								兼1	
			特別支援教育と発達臨床	1後	2			1						
			特別なニーズのある児童生徒のアセスメント	1後	2								兼3	
	特別なニーズのある児童生徒のフォーマル・サポート		1後	2				1	0			兼1		
	小計（8科目）		—	0	16	0	1	2	0	0	0	0	兼5	
	地域・教育課題重点コース専門科目		コミュニティ連携系	次世代の教育課題と地域創生	1後	2			0					兼5
				小計（1科目）										

【認可時又は届出時】

実習科目	現職学生向け	課題実践実習【※】	2前	6	22	17	6														
		課題実践実習A【※】	2前	1	22	17	6														
		課題実践実習B【※】	2後	1	22	17	6														
		課題実践実習C【※】	1後	2	22	17	6														
		特別支援教育課題実践実習【※】	2前	6	1	1	1				兼5										
		特別支援教育課題実践実習A【※】	2前	1	1	1	1				兼5										
		特別支援教育課題実践実習B【※】	2後	1	1	1	1				兼5										
		特別支援教育課題実践実習C【※】	1後	2	1	1	1				兼5										
	小計（8科目）	—	0	20	0	23	17	7	0	0	兼5										
	直進学生向け	教師力向上基礎実習【※】	1後	2	21	16	6														
		教師力向上実習Ⅰ【※】	1後	2	21	16	6														
		教師力向上実習Ⅱ【※】	2前	3	21	16	6														
		教師力向上実習Ⅲ【※】	2後	5	21	16	6														
		特別支援教育教師力向上基礎実習【※】	1後	2	1	1	1				兼5										
		特別支援教育教師力向上実習Ⅰ【※】	1後	2	1	1	1				兼5										
		特別支援教育教師力向上実習Ⅱ【※】	2前	3	1	1	1				兼5										
		特別支援教育教師力向上実習Ⅲ【※】	2後	5	1	1	1				兼5										
	小計（8科目）	—	0	24	0	22	16	7	0	0	兼5										
合計（151科目）												—	16	294	0	23	17	7	0	0	兼114
卒業要件及び履修方法																					
学校マネジメントコース：共通科目18単位（必修12、選択6）、コース共通科目6単位（選択）、系科目4単位（必修）、実習科目10単位（必修）、実践研究省察科目4単位（必修）、自由科目4単位の計46単位																					
教科指導重点コース：共通科目18単位（必修12、選択6）、コース共通科目2単位（必修）、系科目8単位（必修2、選択6）、実習科目10単位（必修）、実践研究省察科目4単位（必修）、自由科目4単位の計46単位																					
児童生徒発達支援コース：共通科目18単位（必修12、選択6）、コース共通科目4単位（必修2、選択2）、系科目6単位（選択）、実習科目10単位（必修）、実践研究省察科目4単位（必修）、自由科目4単位の計46単位																					
地域・教育課題解決コース：共通科目18単位（必修12、選択6）、コース共通科目2単位（必修）、系科目8単位（必修2、選択6）、実習科目10単位（必修）、実践研究省察科目4単位（必修）、自由科目4単位の計46単位																					
（履修科目の登録の上限：36単位（年間））																					

【令和2年度】

実習科目	現職学生向け	課題実践実習【※】	2前	6	21	17	6					
		課題実践実習A【※】	2前	1	21	17	6					
		課題実践実習B【※】	2後	1	21	17	6					
		課題実践実習C【※】	1後	2	21	17	6					
		特別支援教育課題実践実習【※】	2前	6	1	2	0			兼5		
		特別支援教育課題実践実習A【※】	2前	1	1	2	0			兼5		
		特別支援教育課題実践実習B【※】	2後	1	1	2	0			兼5		
		特別支援教育課題実践実習C【※】	1後	2	1	2	0			兼5		
	小計（8科目）	—	0	20	0	22	18	6	0	0	兼5	
	直進学生向け	教師力向上基礎実習【※】	1後	2	21	15	6					
		教師力向上実習Ⅰ【※】	1後	2	21	15	6					
		教師力向上実習Ⅱ【※】	2前	3	21	15	6					
		教師力向上実習Ⅲ【※】	2後	5	21	15	6					
		特別支援教育教師力向上基礎実習【※】	1後	2	1	2	0			兼5		
		特別支援教育教師力向上実習Ⅰ【※】	1後	2	1	2	0			兼5		
		特別支援教育教師力向上実習Ⅱ【※】	2前	3	1	2	0			兼5		
		特別支援教育教師力向上実習Ⅲ【※】	2後	5	1	2	0			兼5		
	小計（8科目）	—	0	24	0	22	17	6	0	0	兼5	
合計（151科目）			—	16	294	0	22	18	6	0	0	兼102
卒業要件及び履修方法												
学校マネジメントコース：共通科目18単位（必修12、選択6）、コース共通科目6単位（選択）、系科目4単位（必修）、実習科目10単位（必修）、実践研究省察科目4単位（必修）、自由科目4単位の計46単位												
教科指導重点コース：共通科目18単位（必修12、選択6）、コース共通科目2単位（必修）、系科目8単位（必修2、選択6）、実習科目10単位（必修）、実践研究省察科目4単位（必修）、自由科目4単位の計46単位												
児童生徒発達支援コース：共通科目18単位（必修12、選択6）、コース共通科目4単位（必修2、選択2）、系科目6単位（選択）、実習科目10単位（必修）、実践研究省察科目4単位（必修）、自由科目4単位の計46単位												
地域・教育課題解決コース：共通科目18単位（必修12、選択6）、コース共通科目2単位（必修）、系科目8単位（必修2、選択6）、実習科目10単位（必修）、実践研究省察科目4単位（必修）、自由科目4単位の計46単位												
（履修科目の登録の上限：36単位（年間））												

- （注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入**してください。
 - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入**してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。
- （2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「**臨地実務実習**」による授業科目には「【臨】」、「**連携実務演習**」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・教育効果向上のため、「Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・教育効果向上のため、「アクティブ・ラーニングの授業と学習評価」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・専任教員の退職・採用等により、「児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2、兼任1」から「教授1、准教授2、兼任1」に変更。
- ・受講希望者がいないため、「学校のリーガルマインド」の専任教員等の配置は「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・専任教員の退職により、「カリキュラム・マネジメントとリーダーシップの理論と実践」の専任教員等の配置を「教授1、講師1」から「講師1」に変更。
- ・専任教員の退職により、「教職員の職能開発」の専任教員等の配置を「教授1、講師1」から「講師1」に変更。
- ・専任教員の退職により、「研究・研修のデザイン」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・専任教員の所属の異動と教育効果向上のため、「総合的学習のカリキュラム編成と実践」の専任教員等の配置を「教授1、講師1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・届出時の集計訂正と教育効果向上のため、「教科の目標・評価と授業研究（言語・社会科学系）」の専任教員等の配置を「教授1、講師1、兼任1」から「教授1、兼任2」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教科の目標・評価と授業研究（理数・自然科学系）」「教科の目標・評価と授業研究（造形・創造科学系）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発A（国語：文学教材・近現代）」「教材分析と授業実践開発B（国語：文学教材・古典）」「教材分析と授業実践開発D（国語：書写書道教材）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・他科目との整合性確保と教育効果向上のため、授業科目の名称を「教材分析と授業実践開発A（小学校社会）」から「教材分析と授業実践開発A（社会：小学校社会）」に変更、「教材分析と授業実践開発B（中学校歴史）」から「教材分析と授業実践開発B（社会：中学校歴史）」に変更、「教材分析と授業実践開発C（中学校地理）」から「教材分析と授業実践開発C（社会：中学校地理）」に変更し、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・他科目との整合性確保により、授業科目の名称を「教材分析と授業実践開発D（中学校公民）」から「教材分析と授業実践開発D（社会：中学校公民）」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発A（英語：音声と文法）」「教材分析と授業実践開発B（英語：コミュニケーション）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当科目の見直しにより、「教材分析と授業実践開発C（英語：異文化理解）」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更。
- ・担当科目の見直しにより、「教材分析と授業実践開発D（英語：リーディング）」の専任教員等の配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。
- ・専任教員の所属の異動により、「教材分析と授業実践開発A（生活：人）」「教材分析と授業実践開発B（生活：社会）」の専任教員等の配置を「講師1、兼任1」から「兼任2」に変更。
- ・担当教員の学長就任により、「教材分析と授業実践開発C（生活：自然）」の専任教員等の配置を「兼任1」から「兼任0」に変更。
- ・担当教員の退職により、「教材分析と授業実践開発A（数学：数と式）」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更。
- ・担当科目の見直しにより、「教材分析と授業実践開発B（数学：図形）」の専任教員等の配置を「教授1、兼任3」から「教授1、兼任1」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当科目の見直しにより、「教材分析と授業実践開発C（数学：関数）」の専任教員等の配置を「兼任4」から「兼任3」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発D（数学：データの活用）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発A（理科：物理）」「教材分析と授業実践開発C（理科：生物）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発A（音楽：音楽科教育概論）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当科目の見直しと教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発C（音楽：歌唱・合唱の指導法）」の専任教員等の配置を「教授1、兼任1」から「教授1」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当科目の見直しと教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発A（美術：「絵画」表現と鑑賞）」の専任教員等の配置を「教授1、兼任2」から「教授1、兼任1」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当科目の見直しと教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発B（美術：「彫刻」表現と鑑賞）」の専任教員等の配置を「准教授1、兼任2」から「准教授1、兼任1」に変更。
- ・担当科目の見直しにより、「教材分析と授業実践開発C（美術：「工芸」表現と鑑賞）」の専任教員等の配置を「准教授1、兼任2」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当科目の見直しにより、「教材分析と授業実践開発D（美術：「デザイン」表現と鑑賞）」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1、兼任1」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発A（保健体育：保健体育授業デザイン）」「教材分析と授業実践開発B（保健体育：保健体育授業評価）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発A（技術：機械材料・材料加工技術学）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・届出時の集計訂正と教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発C（技術：エネルギー技術学）」の専任教員等の配置を「教授1、兼任2」から「教授1、兼任1」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発D（技術：情報技術学）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材分析と授業実践開発A（家政：家族・家庭生活の科学）」「教材分析と授業実践開発B（家政：衣食住の科学I）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材開発と編成・実践開発A（国語：文学教材・近現代）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、授業科目の名称を「教材開発と編成・実践開発B（国語：文学教材・近現代）」から「教材開発と編成・実践開発B（国語：古典）」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材開発と編成・実践開発D（国語：書写書道教材）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材開発と編成・実践開発A（歴史総合、地理総合、公共）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材開発と編成・実践開発A（英語：文法と英語表現）」「教材開発と編成・実践開発B（英語：コミュニケーション）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当科目の見直しと教育効果向上のため、「教材開発と編成・実践開発C（英語：異文化理解）」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当科目の見直しにより、「教材開発と編成・実践開発D（英語：リーディング）」の専任教員等の配置を「兼任2」から「兼任1」に変更。
- ・担当科目の見直しと教育効果向上のため、「教材開発と編成・実践開発A（数学：代数分野）」の専任教員等の配置を「教授1、兼任3」から「教授1、兼任2」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当科目の見直しにより、「教材開発と編成・実践開発B（数学：幾何分野）」の専任教員等の配置を「教授1、兼任3」から「教授1、兼任1」に変更。
- ・担当科目の見直しと教育効果向上のため、「教材開発と編成・実践開発C（数学：解析分野）」の専任教員等の配置を「兼任4」から「兼任3」に変更、配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物）」「教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育効果向上のため、「教材開発と編成・実践開発B（情報：コミュニケーションと情報デザイン）」「教材開発と編成・実践開発D（情報：情報通信ネットワークとデータ活用）」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。

・専任教員の昇進と教育効果向上のため、「子どもの発達と援助ニーズの理解と実践」の専任教員等の配置を「准教授１」から「教授１」に変更、配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・教育効果向上のため、「協働のための社会資源の理解と活用」の配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・教育効果向上のため、「子どものことばの発達とその支援」の配当年次を「１後」から「１前後」に変更。 ・教育効果向上のため、「幼保小連携・接続の理論と実際」の配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・専任教員の昇進と教育効果向上のため、「幼児理解を深める保育事例研究」の専任教員等の配置を「准教授１」から「教授１」に変更、配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・専任教員の昇進により、「障害児保育の理論と実践」の専任教員等の配置を「准教授１」から「教授１」に変更。 ・教育効果向上のため、「養護活動の理論と実践」「健康教育実践の開発と省察」の配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・教育効果向上のため、「視覚障害児童生徒の理解と支援」の配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・専任教員の昇進と教育効果向上のため、「聴覚障害児童生徒の理解と支援」の専任教員等の配置を「兼任１」から「准教授１」に変更、配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・専任教員の昇進と教育効果向上のため、「知的障害児童生徒の理解と支援」の専任教員等の配置を「講師１」から「准教授１」に変更、配当年次を「１後」から「１前後」に変更。 ・専任教員の昇進と教育内容の充実のため、「特別なニーズのある児童生徒のソーシャル・サポート」の専任教員等の配置を「講師１」から「准教授１、兼任１」に変更。 ・担当教員の学長・理事就任により、「次世代の教育課題と地域創生」の専任教員等の配置を「教授１、兼任１」から「教授０、兼任０」に変更。 ・教育効果向上のため、「多文化共生社会と日本語教育の課題」の配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・担当教員の採用と見直しにより、「外国人児童生徒への日本語教育の教材開発」の専任教員等の配置を「准教授１」から「兼任１」に変更。 ・担当教員の退職と教育効果向上のため、「外国人児童生徒への総合的発達支援」の専任教員等の配置を「兼任２」から「兼任１」に変更、配当年次を「１後」から「１前後」に変更。
・教育効果向上のため、「ユニバーサルデザインとICT・科学ものづくり教育」「学校教育におけるEdTechの活用」「ICTを活用した授業設計と教材開発」の配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・担当教員の学長就任により、「創造性開発にむけた科学・ものづくり教育」の専任教員等の配置を「兼任２」から「兼任１」に変更。 ・専任教員の理事就任により、「STEAM人材育成のための科学・ものづくり教育」の専任教員等の配置を「教授１、兼任２」から「兼任２」に変更。 ・担当教員の見直しにより、「公開授業のための教材研究・授業研究A」「公開授業のための教材研究・授業研究B」「公開授業のための教材研究・授業研究C」の専任教員等の配置を「教授３」から「教授２」に変更。 ・専任教員の昇進・退職・採用等により、「課題実践研究Ⅰ」「課題実践研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授２３、准教授１７」から「教授２２、准教授１８、講師１、兼任３」に変更。 ・専任教員の昇進・退職・採用等により、「課題実践研究Ⅲ」「課題実践研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授２３、准教授１７」から「教授２２、准教授１８、講師１、兼任３」に変更、配当年次を「１後」から「１前」に変更。 ・専任教員の昇進と見直しにより、「特別支援教育課題実践実習」「特別支援教育課題実践実習A」「特別支援教育課題実践実習B」「特別支援教育課題実践実習C」の専任教員等の配置を「教授１、講師１、兼任５」から「教授１、准教授２、兼任５」に変更。 ・専任教員の昇進・退職・採用等により、「教師力向上基礎実習」「教師力向上実習Ⅰ」「教師力向上実習Ⅱ」「教師力向上実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授２１、准教授１６、講師６」から「教授２１、准教授１５、講師６」に変更。 ・専任教員の昇進と見直しにより、「特別支援教育教師力向上基礎実習」「特別支援教育教師力向上実習Ⅰ」「特別支援教育教師力向上実習Ⅱ」「特別支援教育教師力向上実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授１、講師１、兼５」から「教授１、准教授２、兼５」に変更。

- (注) ・ ２（１）① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成３０年度開設であれば平成２９年度）の表は適宜削除してください。

（２） 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
10 科目	141 科目	0 科目	151 科目	10 科目 [0]	141 科目 [0]	0 科目 [0]	151 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{151} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（3）未開講科目」と「（4）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考							
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体							
	校 舎 敷 地	202,772㎡ 226,303㎡	0㎡	0㎡	226,303㎡	その他に分類される 駐車場用地が校舎敷 地に参入されていた ため修正するととも に、教職員用宿舎 が、国際教育棟へ改 修され用途の変更が あったため(2)							
	運動場用地	106,346㎡	0㎡	0㎡	106,346㎡								
	小 計	309,118㎡ 332,649㎡	0㎡	0㎡	332,649㎡								
	そ の 他	130,161㎡ 104,745㎡	0㎡	0㎡	104,745㎡								
	合 計	439,279㎡ 437,394㎡	0㎡	0㎡	437,394㎡								
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体							
		63,387㎡ 62,639㎡ (63,387㎡) (- 62,639㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	662,639㎡ (62,639㎡)								
(3) 教 室 等		講 義 室 67室 68室	演 習 室 129室 138室	実験実習室 252室 249室	情報処理学習施設 12室 (補助職員 2人)	語学学習施設 11室 8室 (補助職員 0人)	旧第一人文棟を教育 人文棟へ改修整備す るとともに教育研究 棟全体の教室・研究 室の再配置を行った ため 教職員用宿舎を国際 教育棟へ改修し、語 学学習施設を充実さ せたため(2) 未記載であった補助 職員を記載した (2)						
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 教育学研究科 教育実践高度化専攻			室 数 44 室								
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体					
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕										
			〇〇学部	611,817 〔127,742〕 (611,817〔127,742〕) (623,802〔131,107〕)					10,597〔1,853〕 10,584〔1,853〕 (10,597〔1,853〕) (10,584〔1,853〕)	7,250〔4,188〕 6,781〔4,182〕 (7,250〔4,188〕) (6,781〔4,182〕)	2,456 2,344 (2,456) (2,344)	232 616 (232) (616)	0 (0)
			計	611,817 〔127,742〕 (611,817〔127,742〕) (623,802〔131,107〕)					10,597〔1,853〕 10,584〔1,853〕 (10,597〔1,853〕) (10,584〔1,853〕)	7,250〔4,188〕 6,781〔4,182〕 (7,250〔4,188〕) (6,781〔4,182〕)	2,456 2,344 (2,456) (2,344)	232 616 (232) (616)	0 (0)
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数	大学全体 利用状況に応じた見 直しを行ったため (2)								
		5,861㎡	411 413	766,300 764,600									
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要										
		3,372㎡	武道場(575㎡)		トレーニングセンター(463㎡)								
			陸上競技場(400mトラック)		野球場(1面)								
			サッカー場(1面)		ラグビー場(1面)								
			ハンドボール場(2面)		水泳プール(50m)								
			テニスコート(2面)										
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度					
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円					
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円					
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
		千円	千円	千円	千円	千円	千円						
	学生納付金以外の維持方法の概要												

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称		愛知教育大学大学院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
教育学部	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
初等教育教員養成課程	4	455	-	1,820	学士 (教育学)	1.05	1.03	-	平成12年度	愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1番地	平成29年度入学定員変更 392人→455人
中等教育教員養成課程	4	210	-	840	学士 (教育学)	1.07	1.08	-	平成12年度	同上	186人→210人
特別支援学校教員養成課程	4	30	-	120	学士 (教育学)	1.06	1.03	-	平成12年度	同上	25人→30人
養護教諭養成課程	4	40	-	160	学士 (教育学)	1.07	1.05	-	平成12年度	同上	
教育支援専門職養成課程	4	130	-	520	学士 (教育学)	1.03	1.03	-	平成29年度	同上	
現代学芸課程	4	-	-	-	学士 (学芸)	-	-	-	平成19年度	同上	平成29年学生募集停止
大学全体	-	865	-	3,460	-	-	-	-	-	-	
大学院教育学研究科											
教育実践高度化専攻 (教職大学院)	2	120	-	120	教職修士 (専門職)	0.73	0.73	-	令和2年度	愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1番地	
教育支援高度化専攻	2	30	-	30	修士 (教育学)	0.66	0.66	-	令和2年度	同上	
発達教育科学専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和53年度	同上	令和2年学生募集停止
特別支援教育科学専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和54年度	同上	令和2年学生募集停止
養護教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	平成5年度	同上	令和2年学生募集停止
学校教育臨床専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	平成12年度	同上	令和2年学生募集停止
国語教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和58年度	同上	令和2年学生募集停止
英語教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和55年度	同上	令和2年学生募集停止
社会教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和53年度	同上	令和2年学生募集停止
数学教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和53年度	同上	令和2年学生募集停止
理科教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和53年度	同上	令和2年学生募集停止
芸術教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和53年度	同上	令和2年学生募集停止
保健体育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和53年度	同上	令和2年学生募集停止
家政教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和54年度	同上	令和2年学生募集停止
技術教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	-	-	昭和57年度	同上	令和2年学生募集停止
大学院教育学研究科後期3年博士課程											
共同教科開発学専攻	3	4	-	12	博士 (教育学)	1.33	1.00	-	平成24年度	愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1番地	
大学院教育実践研究科											
教職実践専攻	2	-	-	-	教職修士 (専門職)	-	-	-	平成20年度	愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1番地	令和2年学生募集停止
大学院全体	-	154	-	312	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 教育実践高度化専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	吉岡 恒生 (■) <令和2年4月> 教育学修士 特別支援の児童生徒理解と援助 特別支援教育と発達臨床 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
		新井 美保子 (■) <令和2年4月> 文学修士 学校マネジメントとリーダーシップ 幼保小連携・接続の理論と実際※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	教授	野平 慎二 (■) <令和2年4月> 博士(教育学) 道徳教育の理論と実践 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	吉岡 恒生 (■) <令和2年4月> 教育学修士 特別支援の児童生徒理解と援助 特別支援教育と発達臨床 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
		新井 美保子 (■) <令和2年4月> 文学修士 学校マネジメントとリーダーシップ 幼保小連携・接続の理論と実際※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	教授	野平 慎二 (■) <令和2年4月> 博士(教育学) 道徳教育の理論と実践 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	建内 高昭 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）※ 教材分析と授業実践開発A（英語：音声と文法） 教材開発と編成・実践開発D（英語：リーディング） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ	専他	教授	建内 高昭 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）※ 教材分析と授業実践開発A（英語：音声と文法） 教材開発と編成・実践開発D（英語：リーディング） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
		飯島 康之 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発B（数学：図形） 教材開発と編成・実践開発B（数学：幾何分野） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			飯島 康之 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発B（数学：図形） 教材開発と編成・実践開発B（数学：幾何分野） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 公開授業のための教材研究・授業研究A 公開授業のための教材研究・授業研究B 公開授業のための教材研究・授業研究C
専他	教授	山田 篤史 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） 教材分析と授業実践開発A（数学：数と式） 教材開発と編成・実践開発A（数学：代数分野） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ	専他	教授	山田 篤史 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） 教材分析と授業実践開発A（数学：数と式） 教材開発と編成・実践開発A（数学：代数分野） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	松永 豊 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コンピュータとプログラミング）※ 教材開発と編成・実践開発D（情報：情報通信ネットワークとデータ活用）※ ICTを活用した授業設計と教材開発 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ	専他	教授	松永 豊 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コンピュータとプログラミング）※ 教材開発と編成・実践開発D（情報：情報通信ネットワークとデータ活用）※ ICTを活用した授業設計と教材開発 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
		岩山 勉 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 次世代の教育課題と地域創生 S T E A M人材育成のための科学・ものづくり教育※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			
		大鹿 聖公 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術） 教材分析と授業実践開発C（理科：生物） 教材分析と授業実践開発D（理科：地学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			大鹿 聖公 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術） 教材分析と授業実践開発C（理科：生物） 教材分析と授業実践開発D（理科：地学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 公開授業のための教材研究・授業研究A 公開授業のための教材研究・授業研究B 公開授業のための教材研究・授業研究C

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	平野 俊英 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）	専他	教授	平野 俊英 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
		教材分析と授業実践開発A（理科：物理） 教材分析と授業実践開発B（理科：化学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			教材分析と授業実践開発A（理科：物理） 教材分析と授業実践開発B（理科：化学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	教授	新山王 政和 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士	専他	教授	新山王 政和 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		教材分析と授業実践開発A（音楽：音楽科教育概論）※ 教材分析と授業実践開発B（音楽：音楽の指導法）※ 教材分析と授業実践開発C（音楽：歌唱・合唱の指導法）※ 教材分析と授業実践開発D（音楽：音楽づくり・創作の指導法）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			教材分析と授業実践開発A（音楽：音楽科教育概論）※ 教材分析と授業実践開発B（音楽：音楽の指導法）※ 教材分析と授業実践開発C（音楽：歌唱・合唱の指導法）※ 教材分析と授業実践開発D（音楽：音楽づくり・創作の指導法）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	教授	國府 華子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（音楽学）	専他	教授	國府 華子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（音楽学）
		教材分析と授業実践開発A（音楽：音楽科教育概論）※ 教材分析と授業実践開発B（音楽：音楽の指導法）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			教材分析と授業実践開発A（音楽：音楽科教育概論）※ 教材分析と授業実践開発B（音楽：音楽の指導法）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	富山 祥瑞 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（芸術工学）	専他	教授	富山 祥瑞 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（芸術工学）
		教材分析と授業実践開発D（美術：「デザイン」表現と鑑賞） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			教材分析と授業実践開発D（美術：「デザイン」表現と鑑賞） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 教材分析と授業実践開発C（美術：「工芸」表現と鑑賞）
専他	教授	上原 三十三 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（体育学）	専他	教授	上原 三十三 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（体育学）
		教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	教授	青木 香保里 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士※	専他	教授	青木 香保里 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士※
		教材分析と授業実践開発A（家政：家政・家庭生活の科学）※ 教材分析と授業実践開発B（家政：衣食住の科学Ⅰ）※ 教材分析と授業実践開発C（家政：衣食住の科学Ⅱ）※ 教材分析と授業実践開発D（家政：消費生活・環境の科学）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			教材分析と授業実践開発A（家政：家政・家庭生活の科学）※ 教材分析と授業実践開発B（家政：衣食住の科学Ⅰ）※ 教材分析と授業実践開発C（家政：衣食住の科学Ⅱ）※ 教材分析と授業実践開発D（家政：消費生活・環境の科学）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	准教授	林 牧子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学）	専他	教授	林 牧子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学）
		子どもの発達と援助ニーズの理解と実践 幼児理解を深める保育事例研究※ 障害児保育の理論と実践※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			子どもの発達と援助ニーズの理解と実践 幼児理解を深める保育事例研究※ 障害児保育の理論と実践※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	准教授	山田 浩平 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（スポーツ健康科学）	専他	准教授	山田 浩平 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（スポーツ健康科学）
		健康教育実践の開発と省察 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			健康教育実践の開発と省察 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	准教授	片山 悠樹 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（人間科学）	専他	准教授	片山 悠樹 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（人間科学）
		キャリア発達支援の理論と実践※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			キャリア発達支援の理論と実践※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	准教授	竹川 慎哉 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）	専他	准教授	竹川 慎哉 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
		特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究 教師の実践省察の理論と方法 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究 教師の実践省察の理論と方法 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	准教授	中井 大介 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）	専他	准教授	中井 大介 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
		生徒指導・相談活動の実践的な進め方 生徒指導と教育臨床の理論と実践※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 教育実習指導の理論と実践			生徒指導・相談活動の実践的な進め方 生徒指導と教育臨床の理論と実践※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 教育実習指導の理論と実践
専他	准教授	川北 稔 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（社会学）※	専他	准教授	川北 稔 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（社会学）※
		生徒指導・相談活動の実践的な進め方 子どもの支援と社会的包摂※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			生徒指導・相談活動の実践的な進め方 子どもの支援と社会的包摂※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	准教授	中山 弘之 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）※	専他	准教授	中山 弘之 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）※
		道徳教育の理論と実践 地域協働と学校間連携 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			道徳教育の理論と実践 地域協働と学校間連携 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	准教授	真島 聖子 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）※	専他	准教授	真島 聖子 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）※
		教科の目標・評価と授業研究（言語・社会科学系）※ 教材分析と授業実践開発A（小学校社会）※ 教材分析と授業実践開発D（中学校公民）※ 教材開発と編成・実践開発A（歴史総合・地理総合・公民）※ 教材開発と編成・実践開発D（倫理・政治・経済）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			教科の目標・評価と授業研究（言語・社会科学系）※ 教材分析と授業実践開発A（ 教★ ：小学校社会）※ 教材分析と授業実践開発D（ 教★ ：中学校公民）※ 教材開発と編成・実践開発A（歴史総合・地理総合・公民）※ 教材開発と編成・実践開発D（倫理・政治・経済）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	准教授	川口 直巳 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（文学）	専他	准教授	川口 直巳 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（文学）
		多文化共生社会と日本語教育の課題 外国人児童生徒への日本語教育の教材開発 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			多文化共生社会と日本語教育の課題 外国人児童生徒への日本語教育の教材開発 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	准教授	梅田 (■) 恭子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術）	専他	准教授	梅田 (■) 恭子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術）
		Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発A（情報：情報社会の問題解決）※ 教材開発と編成・実践開発B（情報：コミュニケーションと情報デザイン）※ ICTを活用した授業設計と教材開発 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発A（情報：情報社会の問題解決）※ 教材開発と編成・実践開発B（情報：コミュニケーションと情報デザイン）※ ICTを活用した授業設計と教材開発 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	准教授	齋藤 (■) ひとみ (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術）	専他	准教授	齋藤 (■) ひとみ (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術）
		Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発A（情報：情報社会の問題解決）※ 教材開発と編成・実践開発B（情報：コミュニケーションと情報デザイン）※ 学校教育におけるEdTechの活用※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発A（情報：情報社会の問題解決）※ 教材開発と編成・実践開発B（情報：コミュニケーションと情報デザイン）※ 学校教育におけるEdTechの活用※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
専他	准教授	杉林 英彦 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（芸術学）	専他	准教授	杉林 英彦 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（芸術学）
		教材分析と授業実践開発A（美術：「絵画」表現と鑑賞） 教材分析と授業実践開発B（美術：「彫刻」表現と鑑賞） 教材分析と授業実践開発C（美術：「工芸」表現と鑑賞） 教材分析と授業実践開発D（美術：「デザイン」表現と鑑賞） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			教材分析と授業実践開発A（美術：「絵画」表現と鑑賞） 教材分析と授業実践開発B（美術：「彫刻」表現と鑑賞） 教材分析と授業実践開発C（美術：「工芸」表現と鑑賞） 教材分析と授業実践開発D（美術：「デザイン」表現と鑑賞） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	准教授	磯部 征尊 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）	専他	准教授	磯部 征尊 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
		カリキュラムのデザインと評価※ 研究・研修のデザイン※ 教材分析と授業実践開発 A（技術：機械材料・材料加工技術学） 教材分析と授業実践開発 B（技術：生物技術学）			カリキュラムのデザインと評価※ 研究・研修のデザイン※ 教材分析と授業実践開発 A（技術：機械材料・材料加工技術学） 教材分析と授業実践開発 B（技術：生物技術学）
専他	講師	課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ	専他	講師	課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
		砂川 誠司 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）			砂川 誠司 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
専他	講師	教材分析と授業実践開発 C（国語：言語教材） 教材開発と編成・実践開発 C（国語：言語教材） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ	専他	講師	教材分析と授業実践開発 C（国語：言語教材） 教材開発と編成・実践開発 C（国語：言語教材） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ
		西野 雄一郎 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）			西野 雄一郎 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）
専他	講師	総合的学習のカリキュラム編成と実践※ 教材分析と授業実践開発 A（生活：人） 教材分析と授業実践開発 B（生活：社会）	兼任	講師	総合的学習のカリキュラム編成と実践※ 教材分析と授業実践開発 A（生活：人） 教材分析と授業実践開発 B（生活：社会）
		課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ			課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ
専他	講師	課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ	兼任	講師	課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専	教授	鈴木 健二 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士	実専	教授	鈴木 健二 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士
		道徳教育の理論と実践 児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ 学年・学級マネジメント 学級経営の深化と発展 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			道徳教育の理論と実践 児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ 学年・学級マネジメント 学級経営の深化と発展 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
実専	准教授	伊藤 幹夫 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士			
		児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			
			実専	准教授	加藤 兼幸 (■) ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
					児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専	准教授	山田 浩一 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士 特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究 アクティブ・ラーニングの授業と学習評価 児童生徒をいかに学ぶ経営のためのワークショップ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ	実専	准教授	山田 浩一 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士 特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究 アクティブ・ラーニングの授業と学習評価 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ
		松井 孝彦 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（学校教育学）※ アクティブ・ラーニングの授業と学習評価 教科の目標・評価と授業研究（言語・社会科学系）※ 教材分析と授業実践開発D（英語：リーディング） 教材開発と編成・実践開発A（英語：文法と英語表現） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 教育実習指導の理論と実践			松井 孝彦 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（学校教育学）※ アクティブ・ラーニングの授業と学習評価 教科の目標・評価と授業研究（言語・社会科学系）※ 教材分析と授業実践開発D（英語：リーディング） 教材開発と編成・実践開発A（英語：文法と英語表現） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 教育実習指導の理論と実践
実専他	教授	加納 誠司 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） カリキュラムのデザインと評価※ 地域教育課題に関する体験プログラム開発 総合的学習のカリキュラム編成と実践※ 教材分析と授業実践開発D（生活：自分自身） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 公開授業のための教材研究・授業研究A 公開授業のための教材研究・授業研究B 公開授業のための教材研究・授業研究C	実専他	教授	加納 誠司 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） カリキュラムのデザインと評価※ 地域教育課題に関する体験プログラム開発 総合的学習のカリキュラム編成と実践※ 教材分析と授業実践開発D（生活：自分自身） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専他	教授	倉本 哲男 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）	実専他	特別教授	
		特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究 協働的な学校マネジメントのあり方 学校マネジメントとリーダーシップ カリキュラム・マネジメントとリーダーシップの理論と実践 教職員の職能開発 研究・研修のデザイン※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			
			実専他	特別教授	清水 克博 (■) ＜令和2年4月＞ 工学学士
					人事マネジメント 特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究 学校マネジメントとリーダーシップ 協働的な学校マネジメントのあり方
実専他	教授	浅田 知恵 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）	実専他	教授	浅田 知恵 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）
		協働的な学校マネジメントのあり方 クライシス/リスクマネジメント※ 養護活動の理論と実践 保健室経営と校内外組織の連携・協働 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			協働的な学校マネジメントのあり方 クライシス/リスクマネジメント※ 養護活動の理論と実践 保健室経営と校内外組織の連携・協働 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専他	教授	丹藤 博文 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教科の目標・評価と授業研究（言語・社会科学系）※ 教材分析と授業実践開発A（国語：文学教材・近現代）※ 教材開発と編成・実践開発A（国語：文学教材・近現代）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 公開授業のための教材研究・授業研究A 公開授業のための教材研究・授業研究B 公開授業のための教材研究・授業研究C	実専他	教授	丹藤 博文 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教科の目標・評価と授業研究（言語・社会科学系）※ 教材分析と授業実践開発A（国語：文学教材・近現代）※ 教材開発と編成・実践開発A（国語：文学教材・近現代）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
		近藤 裕幸 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学） 教材分析と授業実践開発A（小学校社会）※ 教材分析と授業実践開発C（中学校地理）※ 教材開発と編成・実践開発C（地理探求）※ 教材開発と編成・実践開発A（歴史総合、地理総合、公民）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			近藤 裕幸 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学） 教材分析と授業実践開発A（ 社 ：小学校社会）※ 教材分析と授業実践開発C（ 社 ：中学校地理）※ 教材開発と編成・実践開発C（地理探求）※ 教材開発と編成・実践開発A（歴史総合、地理総合、公民）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
		本多 満正 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発C（技術：エネルギー技術学）※ 教材分析と授業実践開発D（技術：情報技術学）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ			本多 満正 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発C（技術：エネルギー技術学）※ 教材分析と授業実践開発D（技術：情報技術学）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専他	教授	森 勇示 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） 教科の目標・評価と授業研究（造形・創造科学系） 教材分析と授業実践開発A（保健体育：保健体育授業デザイン） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 公開授業のための教材研究・授業研究A 公開授業のための教材研究・授業研究B 公開授業のための教材研究・授業研究C	実専他	教授	森 勇示 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） 教科の目標・評価と授業研究（造形・創造科学系） 教材分析と授業実践開発A（保健体育：保健体育授業デザイン） 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
		鈴木 一成 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） 教材分析と授業実践開発B（保健体育：保健体育授業評価）※ 教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※ 教材分析と授業実践開発D（保健体育：保健）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 教育実習指導の理論と実践			鈴木 一成 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） 教材分析と授業実践開発B（保健体育：保健体育授業評価）※ 教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※ 教材分析と授業実践開発D（保健体育：保健）※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ 教育実習指導の理論と実践
		小倉 靖範 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）（特別支援教育学） 知的障害児童生徒の理解と支援 特別なニーズのある児童生徒のソーシャル・サポート 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ	実専他	准教授	小倉 靖範 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）（特別支援教育学） 知的障害児童生徒の理解と支援 特別なニーズのある児童生徒のソーシャル・サポート 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ
					大塚 とよみ (■) ＜令和2年4月＞ 学士（教育学） 聴覚障害児童生徒の理解と支援 課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 課題実践研究Ⅲ 課題実践研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実み	講師	大岩 良三 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）	実み	講師	大岩 良三 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）
		カリキュラム・マネジメントとリーダーシップの理論と実践 教職員の職能開発 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ			カリキュラム・マネジメントとリーダーシップの理論と実践 教職員の職能開発 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ
実み	講師	杉浦 美智子 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士	実み	講師	杉浦 美智子 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士
		クライシス/リスクマネジメント※ 学校業務と学校財務のマネジメント 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ			クライシス/リスクマネジメント※ 学校業務と学校財務のマネジメント 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ
実み	講師	田中 清美 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士	実み	講師	田中 清美 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士
		子どもの支援と社会的包摂※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ			子どもの支援と社会的包摂※ 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ
実み	講師	野木森 広 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士	実み	講師	野木森 広 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学士
		協働的な学校マネジメントのあり方 学年・学級マネジメント 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ			協働的な学校マネジメントのあり方 学年・学級マネジメント 課題実践実習 課題実践実習A 課題実践実習B 課題実践実習C 教師力向上基礎実習 教師力向上実習Ⅰ 教師力向上実習Ⅱ 教師力向上実習Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	佐々木 徹郎 (●) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）	兼任	特別教授	佐々木 徹郎 (●) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
		アクティブ・ラーニングの授業と学習評価 教科の目標・評価と授業研究（理数・自然科学系）			アクティブ・ラーニングの授業と学習評価 教科の目標・評価と授業研究（理数・自然科学系）
兼任	教授	高橋 美由紀 (●) ＜令和2年4月＞ 博士（地域研究）	兼任	教授	高橋 美由紀 (●) ＜令和2年4月＞ 博士（地域研究）
		アクティブ・ラーニングの授業と学習評価 教材分析と授業実践開発C（英語：異文化理解） 教材開発と編成・実践開発C（英語：異文化理解）			アクティブ・ラーニングの授業と学習評価 教材分析と授業実践開発C（英語：異文化理解） 教材開発と編成・実践開発C（英語：異文化理解）
兼任	教授	中野 真志 (●) ＜令和2年4月＞ 博士（文学）	兼任	教授	中野 真志 (●) ＜令和2年4月＞ 博士（文学）
		地域教育課題に関する体験プログラム開発 総合的学習のカリキュラム編成と実践※ 教材分析と授業実践開発A（生活：人） 教材分析と授業実践開発B（生活：社会）			地域教育課題に関する体験プログラム開発 総合的学習のカリキュラム編成と実践※ 教材分析と授業実践開発A（生活：人） 教材分析と授業実践開発B（生活：社会）
兼任	教授	森崎 博志 (●) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）※	兼任	教授	森崎 博志 (●) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）※
		肢体不自由児童生徒の理解と支援 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ			肢体不自由児童生徒の理解と支援 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ
兼任	教授	小川 英彦 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士	兼任	教授	小川 英彦 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		幼保小連携・接続の理論と実践※ 障害児保育の理論と実践※			幼保小連携・接続の理論と実践※ 障害児保育の理論と実践※
兼任	教授	鈴木 裕子 (●) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学）	兼任	教授	鈴木 裕子 (●) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学）
		幼児理解を深める保育事例研究※ 幼児教育実践の開発と省察※			幼児理解を深める保育事例研究※ 幼児教育実践の開発と省察※
兼任	教授	樋口 一成 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士	兼任	教授	樋口 一成 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		幼児教育実践の開発と省察※ 創造性開発にむけた科学・ものづくり教育※			幼児教育実践の開発と省察※ 創造性開発にむけた科学・ものづくり教育※
兼任	教授	福田 博美 (●) ＜令和2年4月＞ 修士（人間科学）	兼任	教授	福田 博美 (●) ＜令和2年4月＞ 修士（人間科学）
		学校危機管理と運営体制※			学校危機管理と運営体制※
兼任	教授	山口 匡 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士※	兼任	教授	山口 匡 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士※
		道徳教育の理論と実践			道徳教育の理論と実践
兼任	教授	弓削 (●) 洋子 (●) ＜令和2年4月＞ 文学修士※	兼任	教授	弓削 (●) 洋子 (●) ＜令和2年4月＞ 文学修士※
		生徒指導・相談活動の実践的な進め方 生徒指導と教育臨床の理論と実践※			生徒指導・相談活動の実践的な進め方 生徒指導と教育臨床の理論と実践※
兼任	教授	大村 恵 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士※	兼任	教授	大村 恵 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士※
		協働のための社会資源の理解と活用			協働のための社会資源の理解と活用
兼任	教授	有働 裕 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士	兼任	教授	有働 裕 (●) ＜令和2年4月＞ 教育学修士
		教材分析と授業実践開発B（国語：文学教材・古典） 教材開発と編成・実践開発B（国語：文学教材・近現代）			教材分析と授業実践開発B（国語：文学教材・古典） 教材開発と編成・実践開発B（国語：文学教材・近現代）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	奥田 浩司 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（文学） 教材分析と授業実践開発A（国語：文学教材・近現代） 教材開発と編成・実践開発A（国語：文学教材・近現代）
		衣川 彰人 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育） 教材分析と授業実践開発D（国語：書写書道教材） 教材開発と編成・実践開発D（国語：書写書道教材）
兼任	教授	木村 博昭 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発D（国語：書写書道教材） 教材開発と編成・実践開発D（国語：書写書道教材）
		田口 尚之 (■) ＜令和2年4月＞ 文学修士 教材分析と授業実践開発B（国語：文学教材・古典） 教材開発と編成・実践開発B（国語：文学教材・近現代）
兼任	教授	矢島 正浩 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（文学） 教材分析と授業実践開発C（国語：言語教材） 教材開発と編成・実践開発C（国語：言語教材）
		稲葉 みどり (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術） 教材分析と授業実践開発B（英語：コミュニケーション） 教材開発と編成・実践開発B（英語：コミュニケーション）
兼任	教授	土屋 武志 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学） 教材分析と授業実践開発B（中学校歴史）※ 教材開発と編成・実践開発A（歴史総合、地理総合、公民）※ 教材開発と編成・実践開発B（日本史探究、世界史探究）※
		松島 周一 (■) ＜令和2年4月＞ 文学修士※ 教材分析と授業実践開発B（中学校歴史）※ 教材開発と編成・実践開発B（日本史探究、世界史探究）※
兼任	教授	植村 英明 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材分析と授業実践開発D（数学：データの活用） 教材開発と編成・実践開発D（数学：確率・統計分野）
		小谷 健司 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発B（数学：図形） 教材開発と編成・実践開発B（数学：幾何分野）
兼任	教授	竹内 義浩 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材分析と授業実践開発B（数学：図形） 教材開発と編成・実践開発B（数学：幾何分野）
		浅井 暢宏 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発C（数学：関数） 教材開発と編成・実践開発C（数学：解析分野）
兼任	教授	中西 宏文 (■) ＜令和2年4月＞ 工学修士 Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発D（情報・情報通信ネットワークとデータ活用）※ ユニバーサルデザインとICT・科学ものづくり教育※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	奥田 浩司 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（文学） 教材分析と授業実践開発A（国語：文学教材・近現代） 教材開発と編成・実践開発A（国語：文学教材・近現代）
		衣川 彰人 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育） 教材分析と授業実践開発D（国語：書写書道教材） 教材開発と編成・実践開発D（国語：書写書道教材）
兼任	教授	木村 博昭 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発D（国語：書写書道教材） 教材開発と編成・実践開発D（国語：書写書道教材）
		田口 尚之 (■) ＜令和2年4月＞ 文学修士 教材分析と授業実践開発B（国語：文学教材・古典） 教材開発と編成・実践開発B（国語：文学教材・近現代）
兼任	教授	矢島 正浩 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（文学） 教材分析と授業実践開発C（国語：言語教材） 教材開発と編成・実践開発C（国語：言語教材）
		稲葉 みどり (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術） 教材分析と授業実践開発B（英語：コミュニケーション） 教材開発と編成・実践開発B（英語：コミュニケーション）
兼任	教授	土屋 武志 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学） 教材分析と授業実践開発B（ 校舎 ：中学校歴史）※ 教材開発と編成・実践開発A（歴史総合、地理総合、公民）※ 教材開発と編成・実践開発B（日本史探究、世界史探究）※
		松島 周一 (■) ＜令和2年4月＞ 文学修士※ 教材分析と授業実践開発B（ 校舎 ：中学校歴史）※ 教材開発と編成・実践開発B（日本史探究、世界史探究）※
兼任	教授	植村 英明 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材分析と授業実践開発D（数学：データの活用） 教材開発と編成・実践開発D（数学：確率・統計分野）
		小谷 健司 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発B（数学：図形） 教材開発と編成・実践開発B（数学：幾何分野）
兼任	教授	中西 宏文 (■) ＜令和2年4月＞ 工学修士 Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発D（情報・情報通信ネットワークとデータ活用）※ ユニバーサルデザインとICT・科学ものづくり教育※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	伊藤 俊一 (■) ＜令和2年4月＞ 文学修士※ Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実証開発D（情報：コミュニケーションと情報デザイン）※ 教材開発と編成・実証開発D（情報：情報通信ネットワークとデータ活用）※ ユニバーサルデザインとICT・科学ものづくり教育※ 学校教育におけるEdTechの活用
		安本 太一 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実証開発A（情報：情報社会の問題解決）※ 教材開発と編成・実証開発D（情報：情報通信ネットワークとデータ活用）※ 学校教育におけるEdTechの活用※
兼任	教授	稲毛 正彦 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材分析と授業実践開発B（理科：化学）
兼任	教授	児玉 康一 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材分析と授業実践開発A（理科：物理）
兼任	教授	高橋 真聡 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材開発と編成・実証開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
		戸田 茂 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発D（理科：地学）
兼任	教授	戸谷 義明 (■) ＜令和2年4月＞ 農学博士 教材分析と授業実践開発B（理科：化学） 教材開発と編成・実証開発B（理科：化学・地学）
兼任	教授	中野 博文 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実証開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
		三宅 明 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材分析と授業実践開発D（理科：地学）
兼任	教授	渡邊 幹男 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実証開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
		加藤 淳太郎 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（農学） 教材開発と編成・実証開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
兼任	教授	星 博幸 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実証開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
		遠藤 透 (■) ＜令和2年4月＞ 芸術学修士 教材分析と授業実践開発C（美術：「工芸」表現と鑑賞）
兼任	教授	佐々木 雅浩 (■) ＜令和2年4月＞ 学士（教育学） 教材分析と授業実践開発C（美術：「工芸」表現と鑑賞）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	伊藤 俊一 (■) ＜令和2年4月＞ 文学修士※ Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実証開発D（情報：コミュニケーションと情報デザイン）※ 教材開発と編成・実証開発D（情報：情報通信ネットワークとデータ活用）※ ユニバーサルデザインとICT・科学ものづくり教育※
		安本 太一 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実証開発A（情報：情報社会の問題解決）※ 教材開発と編成・実証開発D（情報：情報通信ネットワークとデータ活用）※ 学校教育におけるEdTechの活用※
兼任	教授	稲毛 正彦 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材分析と授業実践開発B（理科：化学）
兼任	教授	児玉 康一 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材分析と授業実践開発A（理科：物理）
兼任	教授	高橋 真聡 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材開発と編成・実証開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
		戸田 茂 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発D（理科：地学）
兼任	特別 教授	戸谷 義明 (■) ＜令和2年4月＞ 農学博士 教材分析と授業実践開発B（理科：化学） 教材開発と編成・実証開発B（理科：化学・地学）
兼任	教授	中野 博文 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実証開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
		三宅 明 (■) ＜令和2年4月＞ 理学博士 教材分析と授業実践開発D（理科：地学）
兼任	教授	渡邊 幹男 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実証開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
		加藤 淳太郎 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（農学） 教材開発と編成・実証開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
兼任	教授	星 博幸 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実証開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実証開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実証開発D（理科：理科探究深化）
		遠藤 透 (■) ＜令和2年4月＞ 芸術学修士 教材分析と授業実践開発C（美術：「工芸」表現と鑑賞）
兼任	教授	佐々木 雅浩 (■) ＜令和2年4月＞ 学士（教育学） 教材分析と授業実践開発C（美術：「工芸」表現と鑑賞）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	鷹巣 純 (■) ＜令和2年4月＞ 文学修士 教材分析と授業実践開発B（美術：「彫刻」表現と鑑賞）			
兼任	教授	松本 昭彦 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発A（美術：「絵画」表現と鑑賞） STEAM人材育成のための科学・ものづくり教育※	兼任	教授	松本 昭彦 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発A（美術：「絵画」表現と鑑賞） STEAM人材育成のための科学・ものづくり教育※ 教材分析と授業実践開発D（美術）
兼任	教授	安田 篤生 (■) ＜令和2年4月＞ 文学修士※ 教材分析と授業実践開発A（美術：「絵画」表現と鑑賞）			
兼任	教授	太田 弘一 (■) ＜令和2年4月＞ 農学博士 教材分析と授業実践開発B（技術：生物技術学）	兼任	教授	太田 弘一 (■) ＜令和2年4月＞ 農学博士 教材分析と授業実践開発B（技術：生物技術学）
兼任	教授	北村 一浩 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） 教材分析と授業実践開発A（技術：機械材料・材料加工技術学） 教材分析と授業実践開発C（技術：エネルギー技術学） STEAM人材育成のための科学・ものづくり教育※	兼任	教授	北村 一浩 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） 教材分析と授業実践開発A（技術：機械材料・材料加工技術学） 教材分析と授業実践開発C（技術：エネルギー技術学） STEAM人材育成のための科学・ものづくり教育※
兼任	教授	鎌田 敏之 (■) ＜令和2年4月＞ 工学修士※ 教材分析と授業実践開発D（技術：情報技術学）	兼任	教授	鎌田 敏之 (■) ＜令和2年4月＞ 工学修士※ 教材分析と授業実践開発D（技術：情報技術学）
兼任	教授	鈴木 英樹 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発B（保健体育：保健体育授業評価）※ 教材分析と授業実践開発D（保健体育：保健）※	兼任	教授	鈴木 英樹 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発B（保健体育：保健体育授業評価）※ 教材分析と授業実践開発D（保健体育：保健）※
兼任	教授	板倉 厚一 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（農学） 教材分析と授業実践開発B（家政：衣食住の科学Ⅰ）※ 教材分析と授業実践開発C（家政：衣食住の科学Ⅱ）※	兼任	教授	板倉 厚一 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（農学） 教材分析と授業実践開発B（家政：衣食住の科学Ⅰ）※ 教材分析と授業実践開発C（家政：衣食住の科学Ⅱ）※
兼任	教授	加藤 祥子 (■) ＜令和2年4月＞ 家政学修士 教材分析と授業実践開発B（家政：衣食住の科学Ⅰ）※ 教材分析と授業実践開発C（家政：衣食住の科学Ⅱ）※	兼任	特別教授	加藤 祥子 (■) ＜令和2年4月＞ 家政学修士 教材分析と授業実践開発B（家政：衣食住の科学Ⅰ）※ 教材分析と授業実践開発C（家政：衣食住の科学Ⅱ）※
兼任	教授	関根 美貴 (■) ＜令和2年4月＞ 家政学修士 教材分析と授業実践開発A（家政：家族・家庭生活の科学）※ 教材分析と授業実践開発D（家政：消費生活・環境の科学）※	兼任	教授	関根 美貴 (■) ＜令和2年4月＞ 家政学修士 教材分析と授業実践開発A（家政：家族・家庭生活の科学）※ 教材分析と授業実践開発D（家政：消費生活・環境の科学）※
兼任	教授	山根 真理 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士※ 教材分析と授業実践開発A（家政：家族・家庭生活の科学）※	兼任	教授	山根 真理 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士※ 教材分析と授業実践開発A（家政：家族・家庭生活の科学）※
兼任	教授	野田 敦敬 (■) ＜令和2年4月＞ 教育学修士 教材分析と授業実践開発C（生活：自然） 次世代の教育課題と地域創生 創造性開発にむけた科学・ものづくり教育※			
兼任	教授	野崎 浩成 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発A（情報：情報社会の問題開発）※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コンピュータとプログラミング）※ 学校教育におけるEdTechの活用※	兼任	教授	野崎 浩成 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発A（情報：情報社会の問題開発）※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コンピュータとプログラミング）※ 学校教育におけるEdTechの活用※
兼任	教授	伊東 正人 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）	兼任	教授	伊東 正人 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	青柳 まゆみ (■) ＜令和2年4月＞ 修士（心身障害学）※ 視覚障害児童生徒の理解と支援 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ	兼任	准教授	青柳 まゆみ (■) ＜令和2年4月＞ 修士（心身障害学）※ 視覚障害児童生徒の理解と支援 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ
		岩田 吉生 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） 子どものことばの発達とその支援 聴覚障害児童生徒の理解と支援 特別なニーズのある児童生徒のアセスメント※ 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ			岩田 吉生 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学） 子どものことばの発達とその支援 特別なニーズのある児童生徒のアセスメント※ 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ
兼任	准教授	飯塚 一裕 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（人間環境学）※ 発達障害児童生徒の理解と支援 特別なニーズのある児童生徒のアセスメント※ 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ	兼任	准教授	飯塚 一裕 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（人間環境学）※ 発達障害児童生徒の理解と支援 特別なニーズのある児童生徒のアセスメント※ 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ
		岡本 陽 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（医学） 学校危機管理と運営体制※			岡本 陽 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（医学） 学校危機管理と運営体制※
兼任	准教授	石田 靖彦 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育心理学） 生徒指導・相談活動の実践的な進め方 生徒指導と教育臨床の理論と実践※	兼任	准教授	石田 靖彦 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育心理学） 生徒指導・相談活動の実践的な進め方 生徒指導と教育臨床の理論と実践※
兼任	准教授	黒川 雅幸 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（心理学） 生徒指導・相談活動の実践的な進め方 児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ 生徒指導と教育臨床の理論と実践※	兼任	准教授	黒川 雅幸 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（心理学） 生徒指導・相談活動の実践的な進め方 児童生徒をいかに学級経営のためのワークショップ 生徒指導と教育臨床の理論と実践※
兼任	准教授	小嶋(■) 佳子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（心理学） 生徒指導・相談活動の実践的な進め方 生徒指導と教育臨床の理論と実践※	兼任	准教授	小嶋(■) 佳子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（心理学） 生徒指導・相談活動の実践的な進め方 生徒指導と教育臨床の理論と実践※
兼任	准教授	趙 卿我 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学） カリキュラムのデザインと評価※	兼任	准教授	趙 卿我 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学） カリキュラムのデザインと評価※
兼任	准教授	釜田 史 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術） 教師の実践省察の理論と方法	兼任	准教授	釜田 史 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術） 教師の実践省察の理論と方法
兼任	准教授	清水 克博 (■) ＜令和2年4月＞ 工学学士 人事マネジメント			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	風岡 治 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育経営）
		学校業務と学校財務のマネジメント
兼任	准教授	二井 紀美子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
		外国人児童生徒への総合的発達支援
兼任	准教授	阿部 亮吾 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（地理学）
		教材分析と授業実践開発C（中学校地理）※ 教材開発と編成・実践開発C（地理探求）※
兼任	准教授	嶺崎 寛子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術）
		外国人児童生徒への総合的発達支援 保護者・地域の支援ネットワークとの連携
兼任	准教授	吉田 健太郎 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（文学）
		教材開発と編成・実践開発D（倫理・政治・経済）※
兼任	准教授	渡邊 英幸 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（国際文化）
		教材開発と編成・実践開発B（日本史探究・世界史探究）※
兼任	准教授	小塚 良孝 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（言語文化学）
		教材分析と授業実践開発D（英語：リーディング） 教材開発と編成・実践開発C（英語：異文化理解）
兼任	准教授	田口 達也 (■) ＜令和2年4月＞ PhD English(英国)
		教材分析と授業実践開発C（英語：異文化理解） 教材開発と編成・実践開発D（英語：リーディング）
兼任	准教授	濱壽 通世 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）
		教材分析と授業実践開発A（英語：音声と文法） 教材開発と編成・実践開発A（英語：文法と英語表現）
兼任	准教授	Venema James Allan (■) ＜令和2年4月＞ Master of Science(英国)
		教材分析と授業実践開発C（英語：異文化理解） 教材開発と編成・実践開発C（英語：異文化理解）
兼任	准教授	Ryan Anthony Gerard (■) ＜令和2年4月＞ Doctor of Philosophy(豪州)
		教材分析と授業実践開発B（英語：コミュニケーション） 教材開発と編成・実践開発B（英語：コミュニケーション）
兼任	准教授	青山 和裕 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）,（教育学）
		教材分析と授業実践開発D（数学：データの活用） 教材開発と編成・実践開発D（数学：確率・統計分野）
兼任	准教授	市延 邦夫 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（数理学）
		教材分析と授業実践開発D（数学：データの活用） 教材開発と編成・実践開発D（数学：確率・統計分野）
兼任	准教授	岸 康弘 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学）
		教材分析と授業実践開発A（数学：数と式） 教材開発と編成・実践開発A（数学：代数分野）
兼任	准教授	橋本 行洋 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（理学）※
		教材分析と授業実践開発C（数学：関数） 教材開発と編成・実践開発C（数学：解析分野）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	風岡 治 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育経営）
		学校業務と学校財務のマネジメント
兼任	准教授	二井 紀美子 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（教育学）
		外国人児童生徒への総合的発達支援
兼任	准教授	阿部 亮吾 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（地理学）
		教材分析と授業実践開発C（数★：中学校地理）※ 教材開発と編成・実践開発C（地理探求）※
兼任	准教授	吉田 健太郎 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（文学）
		教材開発と編成・実践開発D（倫理・政治・経済）※
兼任	准教授	渡邊 英幸 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（国際文化）
		教材開発と編成・実践開発B（日本史探究・世界史探究）※
兼任	准教授	小塚 良孝 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（言語文化学）
		教材分析と授業実践開発D（英語：リーディング） 教材開発と編成・実践開発C（英語：異文化理解）
兼任	准教授	田口 達也 (■) ＜令和2年4月＞ PhD English(英国)
		教材分析と授業実践開発C（英語：異文化理解） 教材開発と編成・実践開発D（英語：リーディング）
兼任	准教授	濱壽 通世 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）
		教材分析と授業実践開発A（英語：音声と文法） 教材開発と編成・実践開発A（英語：文法と英語表現）
兼任	准教授	Ryan Anthony Gerard (■) ＜令和2年4月＞ Doctor of Philosophy(豪州)
		教材分析と授業実践開発B（英語：コミュニケーション） 教材開発と編成・実践開発B（英語：コミュニケーション）
兼任	准教授	青山 和裕 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育）,（教育学）
		教材分析と授業実践開発D（数学：データの活用） 教材開発と編成・実践開発D（数学：確率・統計分野）
兼任	教授	市延 邦夫 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（数理学）
		教材分析と授業実践開発C（数学：関数） 教材開発と編成・実践開発C（数学：解析分野）
兼任	教授	岸 康弘 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学）
		教材分析と授業実践開発A（数学：数と式） 教材開発と編成・実践開発A（数学：代数分野）
兼任	教授	橋本 行洋 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（理学）※
		教材分析と授業実践開発C（数学：関数） 教材開発と編成・実践開発C（数学：解析分野）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	佐久間 紀佳 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発D（数学：データの活用） 教材開発と編成・実践開発D（数学：確率・統計分野）
		野崎 寛 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（数理学） 教材分析と授業実践開発A（数学：数と式） 教材開発と編成・実践開発A（数学：代数分野）
兼任	准教授	高橋 岳之 (■) ＜令和2年4月＞ 工学修士 Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コンピュータとプログラミング）※
		福井 真二 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コミュニケーションと情報デザイン）※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コンピュータとプログラミング）※ ユニバーサルデザインとIoT・科学ものづくり教育 学校教育におけるEdTechの活用※
兼任	准教授	戸倉 則正 (■■■■) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学） 教材分析と授業実践開発D（理科：地学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学）
		阿武木 啓朗 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
兼任	准教授	上野 裕則 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
		長 昌史 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） 教材分析と授業実践開発B（理科：化学） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
兼任	准教授	島田 知彦 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（人間・環境学） 教材分析と授業実践開発C（理科：生物）
		田口 正和 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
兼任	准教授	幅 良統 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発A（理科：物理）
		日野 和之 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
兼任	准教授	政田 洋平 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発D（理科：地学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	佐久間 紀佳 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発D（数学：データの活用） 教材開発と編成・実践開発D（数学：確率・統計分野）
		野崎 寛 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（数理学） 教材分析と授業実践開発A（数学：数と式） 教材開発と編成・実践開発A（数学：代数分野）
兼任	准教授	高橋 岳之 (■) ＜令和2年4月＞ 工学修士 Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コンピュータとプログラミング）※
		福井 真二 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） Society5.0に向けたAI活用のできる人材育成※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コミュニケーションと情報デザイン）※ 教材開発と編成・実践開発C（情報：コンピュータとプログラミング）※ ユニバーサルデザインとIoT・科学ものづくり教育 学校教育におけるEdTechの活用※
兼任	特別准教授	戸倉 則正 (■■■■) ＜令和2年4月＞ 博士（学校教育学） 教材分析と授業実践開発D（理科：地学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学）
		阿武木 啓朗 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
兼任	准教授	上野 裕則 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発A（理科：物理・生物） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
		長 昌史 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（工学） 教材分析と授業実践開発B（理科：化学） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
兼任	准教授	島田 知彦 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（人間・環境学） 教材分析と授業実践開発C（理科：生物）
		田口 正和 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
兼任	准教授	幅 良統 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発A（理科：物理）
		日野 和之 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材開発と編成・実践開発B（理科：化学・地学） 教材開発と編成・実践開発C（理科：理科探究基礎） 教材開発と編成・実践開発D（理科：理科探究深化）
兼任	准教授	政田 洋平 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（理学） 教材分析と授業実践開発D（理科：地学）

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	金原 (■) 聡子 (■) ＜令和2年4月＞ the Graduate Performance Diploma in Opera Performance (卒業)			
		教材分析と授業実践開発C（音楽：歌謡・合唱の指導法）※			
兼任	准教授	橋本 剛 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（音楽）			
		教材分析と授業実践開発D（音楽：音楽づくり・創作の指導法）※			
兼任	准教授	井戸 真伸 (■) ＜令和2年4月＞ 学士（芸術学）			
		教材分析と授業実践開発D（美術：「デザイン」表現と鑑賞）※			
兼任	准教授	永江 智尚 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（芸術学）	兼任	准教授	永江 智尚 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（芸術学）
		教材分析と授業実践開発B（美術：「彫刻」表現と鑑賞）※			教材分析と授業実践開発B（美術：「彫刻」表現と鑑賞）※
兼任	准教授	榊原 洋子 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（学術）	兼任	准教授	榊原 洋子 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（学術）
		クライシス/リスクマネジメント※			クライシス/リスクマネジメント※
		教材分析と授業実践開発B（保健体育：保健体育授業評価）※			教材分析と授業実践開発B（保健体育：保健体育授業評価）※
		教材分析と授業実践開発D（保健体育：保健）※			教材分析と授業実践開発D（保健体育：保健）※
兼任	准教授	寺本 圭輔 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（人間環境学）	兼任	准教授	寺本 圭輔 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（人間環境学）
		教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※			教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※
兼任	准教授	三原 幹生 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（体育学）※	兼任	准教授	三原 幹生 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（体育学）※
		教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※			教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※
兼任	准教授	頼住 一昭 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（体育科学）	兼任	准教授	頼住 一昭 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（体育科学）
		教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※			教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※
兼任	准教授	山下 純平 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（体育学）	兼任	准教授	山下 純平 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（体育学）
		教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※			教材分析と授業実践開発C（保健体育：運動実践）※
兼任	准教授	筒井 (■) 和美 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術）	兼任	准教授	筒井 (■) 和美 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（学術）
		教材分析と授業実践開発B（家政：衣食住の科学Ⅰ）※			教材分析と授業実践開発B（家政：衣食住の科学Ⅰ）※
					教材分析と授業実践開発C（家政：衣食住の科学Ⅱ）※
			兼任	准教授	曾原 雅枝 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）
					課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 保護者・地域の支援ネットワークとの連携
			兼任	准教授	孕石 敏貴 (■) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）
					課題実践研究Ⅰ 課題実践研究Ⅱ 外国人児童生徒への日本語教育の教材開発
兼任	講師	相羽 大輔 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（障害科学）	兼任	講師	相羽 大輔 (■) ＜令和2年4月＞ 博士（障害科学）
		特別なニーズのある児童生徒のアセスメント※ 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ			特別なニーズのある児童生徒のアセスメント※ 特別支援教育課題実践実習 特別支援教育課題実践実習A 特別支援教育課題実践実習B 特別支援教育課題実践実習C 特別支援教育教師力向上基礎実習 特別支援教育教師力向上実習Ⅰ 特別支援教育教師力向上実習Ⅱ 特別支援教育教師力向上実習Ⅲ 特別なニーズのある児童生徒のソーシャル・サポート

37

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・林牧子准教授が令和2年4月1日付で教授に昇進。
- ・兼任教員の市延邦夫准教授が令和2年4月1日付で教授に昇進。
- ・兼任教員の岸康弘准教授が令和2年4月1日付で教授に昇進。
- ・兼任教員の橋本行洋准教授が令和2年4月1日付で教授に昇進。
- ・小倉靖範講師が令和2年4月1日付で准教授に昇進。
- ・兼任教員の麗洋介講師が令和2年4月1日付で准教授に昇進。
- ・兼任教員の高綱()陸美講師が令和2年4月1日付で准教授に昇進。
- ・高井吾朗講師が令和2年4月1日付で准教授に昇進。
- ・清水克博准教授が令和2年4月1日付で特別教授に昇進し所属の移動により専任教員となった。
- ・兼任教員の職位の変更について稲葉みどり教授が令和2年4月1日付で特別教授となった。
- ・兼任教員の職位の変更について加藤祥子教授が令和2年4月1日付で特別教授となった。
- ・兼任教員の職位の変更について戸谷義明教授が令和2年4月1日付で特別教授となった。
- ・兼任教員の職位の変更について佐々木徹郎教授が令和2年4月1日付で特別教授となった。
- ・兼任教員の職位の変更について三宅明教授が令和2年4月1日付で特別教授となった。
- ・兼任教員の職位の変更について戸倉則正准教授が令和2年4月1日付で特別准教授となった。
- ・西野雄一郎講師が令和2年4月1日付で他課程への所属の移動により専任教員から兼任教員となった。
- ・野田敦敬教授が令和2年4月1日付で学長に就任したため授業担当の辞退。
- ・岩山勉教授が令和2年4月1日付で理事に就任したため専任教員の就任辞退。
- ・伊藤幹夫准教授が令和2年3月31日付けで人事交流による退職のため就任辞退。
- ・加藤兼幸准教授を令和2年4月1日付けで人事交流により採用。
- ・倉本哲男教授が令和2年3月31日付けで自己都合(他大学への採用)による退職のため就任辞退。
- ・兼任教員の嶺崎寛子准教授が令和2年3月31日付けで自己都合(他大学への採用)による退職のため授業担当の辞退。

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要教 授数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数
37	19	15
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員等数【教職大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
23	17	7	0	47	0	22	18	6	0	46	0
(23)	(17)	(7)	(0)	(47)	(0)						
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当 の教員数			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当 の教員数				
30	17	114			28	18	102				
(30)	(17)	(114)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
22	18	6	0	46	0	22	18	6	0	46	0
[△1]	[0]	[△1]	[0]	[△3]	[0]	[△1]	[0]	[△1]	[0]	[△3]	[0]
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当 の教員数			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当 の教員数				
28	18	102			28	18	102				
[△2]	[1]	[△12]			[△2]	[1]	[△12]				

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)－③ 年齢構成

年 齢 構 成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
63	1	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{46}{47} = \boxed{97.87} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{46} = \boxed{2.17} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	岩山 勉	R2.3	選択	次世代の教育課題と地域創生	③	R2.4.1付け理事就任のため専任教員の就任辞退（2）						
				選択	STEM人材育成のための科学・ものづくり教育	②							
				選択	課題実践実習	①							
				選択	課題実践実習A	①							
				選択	課題実践実習B	①							
				選択	課題実践実習C	①							
				選択	教師力向上基礎実習	①							
				選択	教師力向上実習Ⅰ	①							
				選択	教師力向上実習Ⅱ	①							
				選択	教師力向上実習Ⅲ	①							
				必修	課題実践研究Ⅰ	①							
				必修	課題実践研究Ⅱ	①							
				必修	課題実践研究Ⅲ	①							
				必修	課題実践研究Ⅳ	①							
2	准教授	伊藤 幹夫	R2.3	選択	次世代の教育課題と地域創生	①	R2.3.31付け人事交流による退職のため就任辞退（2）						
				選択	課題実践実習	①							
				選択	課題実践実習A	①							
				選択	課題実践実習B	①							
				選択	課題実践実習C	①							
				選択	教師力向上基礎実習	①							
				選択	教師力向上実習Ⅰ	①							
				選択	教師力向上実習Ⅱ	①							
				選択	教師力向上実習Ⅲ	①							
				必修	課題実践研究Ⅰ	①							
				必修	課題実践研究Ⅱ	①							
				必修	課題実践研究Ⅲ	①							
				必修	課題実践研究Ⅳ	①							
				3	教授	倉本 哲男		R2.3	選択	特色ある学校カリキュラムづくりの事例研究	①	R2.3.31付け自己都合（他大学への採用）による退職のため就任辞退（2）	
必修	協働的な学校マネジメントのあり方	①											
選択	学校マネジメントとリーダーシップ	①											
選択	カリキュラム・マネジメントとリーダーシップの確立と実践	①											
選択	教職員の職能開発	①											
選択	研究・研修のデザイン	①											
選択	課題実践実習	①											
選択	課題実践実習A	①											
選択	課題実践実習B	①											
選択	課題実践実習C	①											
必修	課題実践研究Ⅰ	①											
必修	課題実践研究Ⅱ	①											
必修	課題実践研究Ⅲ	①											
必修	課題実践研究Ⅳ	①											
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
3	人	必修	13	科目	必修	13	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	28	科目	選択	26	科目	選択	1	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	41	科目	計	39	科目	計	1	科目	計	1	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3)－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計 （ F ）					後任補充状況の集計 （ G ）								
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
0	人	必修	:	0	科目	必修	:	0	科目	必修	:	0	科目
		選択	:	0	科目	選択	:	0	科目	選択	:	0	科目
		自由	:	0	科目	自由	:	0	科目	自由	:	0	科目
		計	:	0	科目	計	:	0	科目	計	:	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－③ 上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合計（Ｄ）＋（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｅ）＋（Ｇ）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
3	人	必修	13	科目	必修	13	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	28	科目	選択	26	科目	選択	1	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	41	科目	計	39	科目	計	1	科目	計	1	科目

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)－③合計(D)+(F)}{(2)－②設置時の計画(A)} = \frac{3}{47} = 6.38 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	:	0 科目	必修	:	0 科目	必修	:	0 科目
		選択	:	0 科目	選択	:	0 科目	選択	:	0 科目
		自由	:	0 科目	自由	:	0 科目	自由	:	0 科目
		計	:	0 科目	計	:	0 科目	計	:	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(3) - ① - 1 の教員については、理事就任のための退職であり、指導教員の決定以前であり専任教員数については専門職大学院設置基準を上回り確保されているため支障はないと判断するが、授業担当予定科目のうち、「次世代の教育課題と地域創生」について担当者が未定であるため、後期の授業開始前に担当者を決して授業開講できるよう、学内で早急に対応を行う。

(3) - ① - 2 の教員については、教育委員会との人事交流による実務家教員であり、後任の准教授 1 名を採用しており、担当予定であったすべての科目について、専任教員が行うこととなっていることから、授業運営実習指導等に支障がないと判断する。

(3) - ① - 2 の教員については、自己都合による就任辞退であるが、後任の教授 1 名を学内の学部担当教員から補充しており、担当予定であったすべての科目について、専任教員が行うこととなっていることから、授業運営実習指導等に支障がないと判断する。

なお、学生には学生便覧やガイダンス時に周知している。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学研究科教育実践高度化専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

愛知教育大学教職キャリアセンター キャリア開発領域 FD部門
(別添1 愛知教育大学教職キャリアセンター規程 参照)

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和2年6月に第1回委員会を開催予定（委員29名）

なお、改組前の平成31年度は年4回の委員会を開催

c 委員会の審議事項等

教員の教育活動の支援（FD）に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

1. 全学FD講演会及び集会の開催

2. 新規採用教員FD研修

3. 授業公開

4. 授業改善アンケート

b 実施方法

1. 全学FD講演会及び集会の開催

年に5回程度テーマを変えて開催する。

2. 新規採用教員FD研修

新採用研修用ビデオの視聴と意見交換及び附属学校など学校現場への訪問研修を行う。

3. 授業公開

前期と後期で授業公開週間を定め、公開対象授業を設定し、授業参観と参観後の公開教員と参観教員による意見交換を行う。

4. 授業改善アンケート

前期期末と後期期末の2回実施する。学生のアンケートとそれに基づく教員からの自己評価書の提出による。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

今後開催予定のため未記入

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

実施結果や参加状況を各部局へ通知し、FD活動に参加するよう各教員へ促す。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

- a 実施の有無及び実施時期
前期期末と後期期末の2回実施した。
- b 教員や学生への公開状況、方法等
教職キャリアセンターFD部門のホームページで公開する。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況
愛知教育大学教職大学院運営協議会
(別添2 愛知教育大学教職大学院運営協議会規程 参照)
(別添3 教育課程連携協議会(教職大学院運営協議会)構成員一覧 参照)
- b 委員会の開催状況(回数や開催日など)
年1回以上の開催(令和3年1月頃第1回委員会を開催予定)
- c 委員会の審議事項等
(1)教育研究及び組織運営の企画・構想に関する事項
(2)教育研究及び組織運営の実施に関する事項
(3)教育研究及び組織運営の点検・評価に関する事項
(4)教育研究及び組織運営の改善・充実に関する事項
(5)その他教育研究及び組織運営に関して必要な事項
- d その他
特記事項なし

② 審議状況

- a 審議した内容
令和2年度からの改組であるため、今後、審議を行う。
なお、改組前の令和元年度の審議事項は以下の通りである。
 - ・ 教職大学院改革状況について
 - ・ 教職大学院の運営全般に関する意見交換
- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況
令和2年度からの改組であるため、今後教育課程への見直しについて検討を行う。
- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況
令和2年度からの改組であるため、今後教育課程への反映について検討を行う。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本専攻は、令和2年4月開設の新設専攻であるため、目的の達成状況について現時点で評価することは困難であるが、概ね設置計画の趣旨に基づきに順調に実施しているといえる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和3年11月 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和3年12月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成3年度に認証評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに掲載するなど、積極的な情報提供をお願いします。